

目 次

- ・平成18年度 大学・大学院入学式 ……3
- ・平成18年度 入学式学長訓辞
学 長 今井久夫 ……3
- ・平成18年度 入学式理事長式辞
理事長職務代行 今井久夫 ……5
- ・本学入試全日程終了 ……6
- ・第99回歯科医師国家試験結果 ……6
- ・佐川前理事長に名誉理事長称号授与 ……7
- ・平成18年 春の叙勲・褒章受章者 ……7
- ・理事長に今井久夫学長が就任 ……8
- ・理事長就任挨拶 理事長 今井久夫 ……8
- ・平成18年度 解剖体慰霊祭 ……10
- ・平成17年度 監事監査報告 ……10
- ・平成17年度 決算報告 ……11
- ・平成18年度 父兄会・共済会総会 ……16
- ・寄 贈 ……16
- ・学位（博士）授与報告 ……16
- ・人 事 ……17
- ・あとがき ……25



平成18年度 大学・大学院入学式（平成18年4月3日）

平成18年度 大学・大学院入学式

平成18年4月3日(月)午前10時より、平成18年度大阪歯科大学ならびに大学院入学式が挙行された。

式典は開会の辞で始まり、国歌斉唱の後、大学128名ならびに大学院7名の入学許可が宣され、今井学長の訓辞ならびに理事長職務代行としての式辞と続き、無事滞りなく終了した。入学式終了後、引き続いて父兄会ならびに共済会が開催された。

平成18年度 入学式学長訓辞

学長 今井 久夫

例年に無く厳寒が続く、遅ればせながらも、入学式の象徴とも言われております桜前線陸の便りが、各地から聞かれるようになりました。この良き日に、平成18年度の大学・大学院入学式が挙行されるに際しまして、本日ご臨席の教授各位を代表して、お祝いの言葉を申し述べさせていただきます。

本日、晴れて本学に入学されます128名の学部学生の皆さん、誠におめでとうございます。また、ご父兄におかれましても、今日の日を鶴首の思いで待ちこがれておられたこととお察し申し上げます。反面、ご父兄の多くの方々には、入学という喜びや精神的安堵感を得られたものの、諸々の環境変化に伴う、ご子弟に対する入学後の授業や対人関係を含めた大学生活に対する不安、6年間にわたる経済的な不安などが交錯した複雑なご心境であろうこととお察し申し上げます。

そこで、本日ご入学されました学生さんに対して、お祝いと同時に、この6年間の本学学生としての心構えを三つ申し上げたいと思います。

まず、一つは、去年の入学式にも申しましたが、イラク戦争の際、わが国の一番手として派遣された自衛隊隊長の番匠幸一郎氏が隊員に向かって、まずわれわれが『行うべきことは何か』を、ローマ字のABCの頭文字を採って、三つの単語で諭されました。すなわち、A：あたりまえの事を、B：ポーとせずに、C：チャントやる、ことを意味しております。皆さん方も本学の学生である以上、学生としての本分をわきまえ、

授業には出席し、学則を守り、他人に迷惑をかけないなど、『当たり前』の事を、ポーとしないで、チャントする』のが義務であります。この当たり前のことが、出来ないようであれば留年、退学といった苦い経験を負わざるを得ない結果を招くであります。

二つ目は、シナリオライターとして有名な倉本 聰氏が言われた、『今の若者は智恵が先に経ち、知識が乏しい』という言葉です。入学後は、とすれば周囲の人達や先輩達から、いろんな入れ知恵を受けられることと思います。但し、入れ知恵が決して悪いとは申しません。しかし、過去の例からみましても、その大半が悪知恵として働くような傾向が強いようです。周知のように知識の積み重ねが智恵となって脳の活性化に働くのです。すなわち、日々の授業等により得られた知識の積み重ねが、進級の是非、6年後における国家試験の可否にも大きく影響するといっても過言ではありません。この、知識を習得してもらうには、授業に対する学生さんの意欲が欠かせません。もちろん、学生さんに勉学の意欲をもって頂くためには、教員サイドにおける講義の内容、方法等の問題でもありと考えております。

確か数年前だと思いますが、島津製作所研究員の田中耕一氏がノーベル賞を受賞されましたが、記者会見の席上、『私が今日あるのは、高校の時に教わった理科の先生の影響が大きかったように思います』と前置きをされた後、『私は理科という教科が好きだから、先生を好きになったのではありません。逆に、先生が好きであったから、理科と言う教科が好きになったのです』と表現されました。私たち教員も、この言葉を肝に銘じ、学生さんたちがわれわれの授業に意欲や興味を持ち、好きになってもらえるように、講義や生活指導等に工夫を凝らしていくための努力を行っていきますので、学生諸君もついてきてほしいと思います。

三つ目は、『義務を怠らない』ということです。むかしから『人は義務を果たすために生きている』と言われていますが、広辞苑によりますと、義務とは『自己の立場に応じてしなければならないこと、してはならないこと』と記されています。言葉を換えますと、学生としての立場であることを念頭に、何をすべきかを理解し、実践して頂きたいということです。とかく、義務を遂行する前に、変な意味での権利の主張をする現代気質の学生さんが多いことから、まずは学生として

の与えられた義務を遂行されてから、権利の主張をすることを強調しておきます。

なお、ご父兄に対しましては、本学は私立大学であることから、その特殊性を勘案しまして、入学という門は、若干広くはさせて頂いております。しかし、時と場合によっては進級という門、卒業という出口は少々狭くなるということをお心に銘じて頂きたいということです。私たち教職員は、ご父兄からお預かりしました歯科医の卵を人工的ではなく、温かい体温で孵化させるように努力をいたします。そのためには、日常の授業や生活等の指導には厳しさが増すこととは思いますが、大学としての趣旨をご理解頂き、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、大学院に入学されました7名の皆さん、誠におめでとうございます。今年度から実施されます卒業臨床研修必修化の実施に伴い、入学者数は激減しましたが、まさしく少数精鋭といった言葉が当てはまるような大学院生ばかりであるという感を抱いております。また、ご父兄におかれましては、ご子弟の晴れ姿を目の前にされ、その感慨もひとしおのこととお察し申し上げます。同時に、これからの4年間、いろいろな面で『大変だなあ』とも感じられ、その胸中は複雑な思いが去来していることと思っております。

大学院生の皆さん方は、すでに歯学士の免許を取得

されているわけですが、なおその上の博士(歯学)の取得を目指されるわけですが、しかし、その道のりは厳しいということも覚悟しなくてはなりません。それだけに、その志がまっとうできた時の喜びは、筆舌には尽くせないものと思っております。そこで、大学院生の皆さんには『耐え忍ぶことの尊さは、それを乗り越えた者にしか味わえない』という言葉をお贈りしたいと思っております。貴方たちは今後、より崇高な歯科医学の探求を目指して、研究に、臨床に勤しまれるわけですが、とりわけ研究面においては失敗を重ね、行き詰まりを覚えたりしながら、忍耐強く研究を進めていかれることとは思いますが、それだけに得られた研究成果には満足感と達成感がより強く味わえるものと思っております。どうか、忍耐強く研究に勤しんで頂きたく願っております。

最後に、本日の大学・大学院の入学式に際し、本学の教職員、在校生一同を代表して、学長としての所感の一端を述べさせて頂きましたが、学部学生にとりましては6年間一貫教育というカリキュラム、大学院生にとっては4年間の研究生生活をまっとうするのに最も大切なことは、日常の健康管理にあります。学生・大学院生自身によるセルフケアというまでもありませんが、どうかご父兄におかれましては、ご子弟に対する常日頃の健康管理には細心の心配りをお願いしまして、学長としての訓辞とさせていただきます。





平成18年度 入学式理事長式辞
理事長職務代行 今井 久夫

入学式の象徴でもある、桜の便りが全国各地から送られてくるこの良き日に、ご来賓の皆様、関係各位の方々をはじめ、多くのご父兄のご臨席を賜り、ここに平成18年度128名の学部学生ならびに7名の大学院生の入学式を挙行できましたことは、誠にめでたく、喜びにたえません。あらためまして、教職員を代表し、学部学生、大学院生、ご父兄の皆様方に心よりお祝い申し上げます。

まず、本日をもって晴れて本学の学生として在学される学部学生さんたちに、理事長職務代行としてひと言、申し上げさせていただきます。本学は1911年(明治44年)に創立され、2011年には100周年を迎えようとする伝統ある歯科大学であります。あなた方も我々と共に、諸先輩の築かれた大学愛、校風、そして同窓としての絆を汚すことなく受け継がねばなりません。言葉を換えますと、入学された一人ひとりが本学に入学した目的と意識をしっかりともち、同時に本学の『建学の精神』を根幹とした教育方針を理解し、勉学はもとより生活面にあっても常識を失うことなく、また個性も大切にしていきたいと願っております。そして、将来は国内に止まらず、国際的にも通用するプロフェッショナルな歯科医師になられんことを切望いたします。また、本学には他の私立大学歯学部、歯科大学では類をみない、救済制度があります。周知のように、人生には上り坂と下り坂があります。しかし、最も気を付

けなくてはならないのが、真坂(まさか)です。もしも、そのような真坂という深刻な事態が親権者に生じた場合、授業料が免除となる制度です。また、学費等で支障が生じた場合、共済会から貸付の制度もあります。

さて、皆さん方も周知のように、政界にあつては、去年は郵政民営化を中心とした政治改革が話題となり、物議をかもし出しましたが、歯科界にあつても例外ではなく医療費の削減、歯科医師会と政界との癒着などが組上にあがりました。大学にあつても卒後臨床研修の必修化、資格試験であるべき国家試験が選抜試験であるかのような様相が見受けられたり、噂ではありますが、国家試験の受験年限を3年とする、などといった教育改革の嵐が吹き荒れています。本日入学された学生さんたちには、この嵐に飛ばされないように頑張って頂きたく切望いたします。この教育改革も、従来の知識を一方的に教え込むのではなく、自らが学び、自らが考える力と豊かな人間性を育む教育でなくてはならないといった、歯科医学における教育方針の変革にも繋がっているといえます。

そこで、本学に入学される皆さんに『能力の差は小なり、されど努力の差は大なり』の言葉を贈りたく思います。入学は選抜試験である以上、合格の順位は付けなくてはなりません。しかし、今回入学された学生さん128名の能力にはさしたる差はありません、むしろ、これからの6年間を如何に努力するかにかかっているのです。その意味からも、この6年間を『どうにかなる』といった安易な考えは捨て、『どうにかしよう』という強い努力の姿勢を忘れないように願っております。

さて、大学院に入学されました7名の皆さん、本日は誠にめでたうございます。例年になく入学者の数が激減しておりますが、前述のように大学院受験者の激減の要因は、今年度から実施される卒後臨床研修の必修化にあるようです。大学卒業後の1年間は臨床研修が義務付けられ、研修が修了した後でなくては、大学院に進めないといった卒後研修の義務化が大学院の入学減少に繋がったものと思われます。しかし、私の目からみれば、今年の大学院生は少数でも精鋭揃いの強者ばかりであるとの感を抱いております。また、大学院に入学された方々は、歯学士の免許を取得されているにもかかわらず、より崇高な歯科医学を求めて新たな研究の道を選ばれた心意気には、満腔の敬意を表させていただきます。

このたび大学院に入学されました皆さんは、博士号取得を目指されるわけですが、その前途は決して平坦とは言えません。そこで、貴方たちには、理事長職務代行として『もし成功しなかったら試みよ、さらに試みよ』の言葉をお贈りしたいと思います。周知のように、研究結果の成功を得るのは生易しいものではありません。幾度と無く失敗を重ねながら、成功へと繋がっていくのです。それだけに満足な研究成果が得られたならば、その価値観は高まり、満足感にも浸れるわけです。このことが、貴方たちを人間的にも、歯科医療人としても一回りも二回りも大きくし、求められる歯科医師として大きく成長していかれるのです。望むらくは、この4年間は国内のみに止まらず、海外にも目を向けられ、よりプロフェッショナルを目指して頂きたくご祈念申し上げ、大学・大学院入学式での式辞とさせていただきます。



平成18年度 本学入試全日程終了

本学の設置する大学、大学院、専修学校の平成18年度の入学試験状況は、下記のとおりである。

平成18年度の入学者は、大学においては128名(推薦28名、一般100名)であり、大学院は今年度から歯科医師臨床研修制度必修化の影響もあり例年より少なく7名であった。専修学校については、歯科技工士専門学校は45名、同専攻科は10名であり、歯科衛生士専門学校は43名、同専攻科は9名であった。

第99回 歯科医師国家試験結果

先般実施された、第99回歯科医師国家試験の合格発表があり、その結果は次の通りであった。

- ・試験日：平成18年2月11日(土)・12日(日)
- ・試験場：関西大学天六学舎(大阪市)
- ・合格発表：平成18年4月5日(水)

第99回歯科医師国家試験結果

	受験者数	合格者数	不合格者数	合格率
新卒	111	95	16	85.6%
既卒	64	32	32	50.0%
合計	175	127	48	72.6%
全国	3,308	2,673	635	80.8%

今年の受験者数は3,308人で昨年とほぼ同数である

が、合格者数は2,673人で昨年より180人多く、合格率も6.2ポイントアップし80.8%であった。本学の合格率は72.6%で、昨年に比べ6.3ポイントアップした。新卒者は95名が合格し85.6%と健闘したが、既卒者の合格率が低く、全体では全国平均に及ばなかった。

私立歯科大学では東京歯科大学、昭和大学歯学部、日本大学松戸歯学部の3校が、平均を10ポイント近く上回る9割前後の合格率を示した。日本大学歯学部、愛知学院大学歯学部、日本歯科大学、明海大学歯学部も全国平均を超える合格率であった。入学定員数に対する合格率を調べると、本学は私立歯科大学17校中8位であったが、上位校との差は縮まっていない。

第99回歯科医師国家試験大学別合格率

学校名	受験者数	合格者数	合格率
国公立大学(計)	859	779	90.7%
北海道大学歯学部	74	65	87.8%
東北大学歯学部	65	59	90.8%
東京医科歯科大学歯学部	61	57	93.4%
新潟大学歯学部	67	61	91.0%
大阪大学歯学部	69	65	94.2%
岡山大学歯学部	64	62	96.9%
広島大学歯学部	66	58	87.9%
徳島大学歯学部	73	59	80.8%
九州大学歯学部	66	63	95.5%
長崎大学歯学部	69	61	88.4%
鹿児島大学歯学部	75	70	93.3%
九州歯科大学	110	99	90.0%
私立大学(計)	2,443	1,890	77.4%
北海道医療大学歯学部	110	77	70.0%
岩手医科大学歯学部	103	79	76.7%
奥羽大学歯学部	151	99	65.6%
明海大学歯学部	129	107	82.9%
日本大学松戸歯学部	142	126	88.7%
東京歯科大学	141	128	90.8%
日本歯科大学	162	135	83.3%
日本大学歯学部	156	133	85.3%
昭和大学歯学部	112	101	90.2%
鶴見大学歯学部	156	125	80.1%
神奈川歯科大学	175	127	72.6%
日本歯科大学新潟歯学部	152	113	74.3%
松本歯科大学	174	92	52.9%
愛知学院大学歯学部	141	118	83.7%
朝日大学歯学部	141	109	77.3%
大阪歯科大学	175	127	72.6%
福岡歯科大学	123	94	76.4%
その他(計)	6	4	66.7%
総合(計)	3,308	2,673	80.8%

佐川前理事長に名誉理事長称号授与

平成18年6月1日付けで、佐川寛典前理事長に名誉理事長の称号が授与された。

名誉理事長の称号は、理事長として本学の発展に特に功績があり、(1)理事長を2期8年以上務め、かつ理事在任期間が3期12年以上で年齢が70歳以上の者、または(2)名誉理事長にふさわしいと認められる者、このいずれかの該当者を対象に理事会で選ばれる。

平成18年 春の叙勲・褒章受章者

平成18年春の叙勲・褒章者として大阪歯科大学関係の先生方が、以下の通り受章されました。

叙勲

- 専門 31回 **小森 範文** 岐阜県 瑞宝双光章
- 大学 2回 **西田 眞和** 兵庫県 旭日双光章
- 大学 3回 **恩地 節哉** 和歌山県 旭日双光章
- 大学 3回 **岡田 實之** 三重県 瑞宝双光章
- 大学 6回 **日浦 明吉** 高知県 瑞宝双光章
- 大学 8回 **大坪 稔** 佐賀県 旭日双光章

褒章

- 大学 14回 **辻村 忠彦** 和歌山県 藍綬褒章

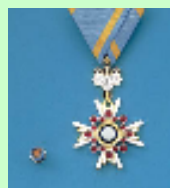
叙勲と褒章

毎年、春は4月29日、秋は11月3日に各界の功労者に対して授与されます。「叙勲」は、国や公共に対し功労があり、「旭日章」は顕著な功績を挙げた方、「瑞宝章」は公務等に長年にわたり従事した方を対象にしています。

また、「褒章」は学術・芸術の分野で功績のあった人に贈られる「紫綬褒章」、公共の仕事において功績のあった人に贈られる「藍綬褒章」などがあります。



旭日双光章



瑞宝双光章



藍綬褒章

理事長に今井久夫学長が就任

平成18年4月4日(火)に開催された評議員会において、今井久夫学長・理事長職務代行の理事長就任が承認された。改選された理事ならびに監事は次のとおりである。

- 理事長 今井 久夫 学長
- 常務理事 村上 勝 (総務担当)
- 常務理事 新田 孟 (人事担当)
- 常務理事 中村 正明 (教学・財務担当) 副学長
- 理事 川添 堯彬 (教学・人事担当) 副学長
- 理事 三谷 卓 (総務担当)
- 理事 岡 邦恭 (調査担当)
- 理事 田治米保夫 (財務担当)
- 理事 橋本 猛伸 (調査担当)
- 理事 井上 宏 (人事担当)
- 理事 伊達 洋彦 (財務担当)
- 監事 下村 錢三郎
- 監事 白神 進

理事長就任挨拶

- 選ばれても選べない我が人生の過去・現在・未来 -
理事長 今井 久夫



今般、平成18年度第2回理事会におきまして、不肖私が各理事の互選により、伝統ある学校法人大阪歯科大学の理事長として選任され、法人評議員会において承認を賜り、光栄に存ずる次第であります。反面、その喜

びもさることながら、理事長としての責務の大きさ、重大さに戸惑いと不安感を覚えざるを得ないといったのが、偽りの無い現在の心境であります。同時に、その職務をまっとうすべく自覚と心の準備はもとより、その置かれている立場の重さに身が引き締まる思いでもあります。

さて、人生も自然の変化と同様、自身の運命も川の流れのように、自身の力、意思だけでは如何ともし難

いものであるということ、70歳を間近にして痛感したというのも正直な気持ちであります。換言しますと、現在の置かれている自身の理事長としての立場が、私を含め誰しもが予想だにできなかったということであり、ここにも自然の災害と同じように、避けようとしても避けられない人生の不思議さと運命の不可思議さを覚えざるを得ません。

幾多の問題を乗り越えて

思い起こせば、私にとって、教授に就任させて頂き定年までの10年間は、忘れる事のできない波乱に富んだ人生であったように思われてなりません。周知のように、私が教授に就任して約2年後の平成12年3月に行われた第93回歯科医師国家試験の出題問題漏洩疑惑、長尾の土地売却の件に対する私への中傷、病院長時代における小児歯科での医療事故の一件に伴う患者さんやその家族の人権を無視したような、ジャーナリストの横暴な“口撃”，医療問題に対する数件の訴訟事件、人権問題に対する糾弾会への呼び出しなど、思い出したくもありませんが、忘れることのできない多くの出来事に直面し、ノイローゼ状態、人間不信に陥ったことも事実であります。しかも、それらのことごとくが、偶然にも病院長職に就任した直後、病院長と学長職の兼務直後、講座主任教授と学長職との兼務の時期など精神的・肉体的重圧とも重なった時期でもあったことから、人間不信が益々高じましたが、“これくらいのことであれば負けたり、逃げてはならない”“尻尾を巻いての負け犬にはなりたくない”といった気持ちが益々強まり、同時に“噂の木、根も葉も無いのによく育つ”といった諺があるように、変な噂には惑わされないように、一層自身の士気を鼓舞させながら、直面してきた色々な問題に立ち向かってきました。

これらの多くの忌まわしい問題に対して、勇氣と根気でもって立ち向かい、気持ちを奮い立たせることができましたのも、私に対する家族の理解と協力、多くの先輩方や友人たちはもとより、数多くの教職員からの力強いサポート、温かい励ましや労わり、思いやり等があったからこそできたことで、今も家族や多くの教職員、先輩、友人に対する感謝の念を忘れることはできません。

これら多くの問題を体験し、それら一つ一つの解決が図られ、私自身を大きく成長させてくれたことから、

“義理・人情・恩義・恩情”という言葉が 私の人生における座右の銘としております。また、現在の私が在るもう一つの所以が、学生時代にはボクシング部に在籍していたことだと思います。人生の嫌な強打に対して“打たれ強く”なり、時には“相手のパンチを避けて、軽くジャブでかわせる”ようにもなれたものと、今もボクシング部への愛着と感謝の念を忘れることはできません。今回も理事長・学長職が兼務ということから、同じような問題が起こる可能性は予想されますが、それらの問題に対しましても、今まで培ってきた精神力と築いてきた人間関係を基盤に“義理・人情・恩義・恩情”を礎として理事長・学長の兼務遂行に邁進していく覚悟であります。

よき伝統を護りつつ大学改革に着手

それでは、前置きが些か長くなりましたが、依頼原稿の主旨である、理事長として何をなすべきなのか、これからの大学が如何にあるべきなのかなどの点について、今後に対する些かの抱負を述べさせていただきます。

周知のように、理事とは、法人、組織、団体などを代表して、その事務を司る役割や機関をいい、理事会とは団体の代表権を分掌した理事の集会、または組織と定義付けられています。したがって、理事長たる者は法人や組織、機関の代表である理事、あるいは理事会を統括し、法人業務がスムーズに執行されるべきリーダー的存在でなくてはならないと言えます。したがって、その責務は重く、大学の管理・運営が旨く図られるべき統率力あるいは実践力が問われる職務であることを心しなくてはなりません。

しかしながら、この大学の管理・運営を旨く図ろうとするならば、全教職員の理解と協力が得られなくては叶わないことも事実であります。それには、法人のトップとして、全教職員の心をとらえ、大学サイドに対する要望や期待感を理解し、受け入れられるべき体制を築かなくてはなりません。しかし、浅学非才の私ゆえ、善きにつけ悪しきにつけ、95年間も受け継がれてきた本学の伝統を打破するのは容易なことではありません。換言しますと、良き社会情勢、本学の良き経済状況下でのぬるま湯的な考えは、一朝一夕には払拭することはできません。しかし、現在の厳しい社会情勢や歯科界の状況、さらには現在の本学における財務状況等を勘案した場合、本学の良き時代での甘い考え

は捨て、同時に良き伝統は護りながらも大学改革に着手しなくては、大学自体の存在も危惧される状態を招きかねないと言わざるを得ません。

社会的ニーズに応じた医療改革

ご存知のように、各大学における学生のカリキュラムも、一昔前とはかなりの様変わり呈するようになり、従来の講座単位による講義からユニット講義へと移行し、知識偏重から一般臨床医の育成を目的とする統合型カリキュラムに変わってきています。

附属病院サイドにあっても例外では無く、厳しい診療報酬の削減や患者減ならびに社会的あるいは一般大衆の高度化したニーズを勘案した場合、これまで行ってきた診療科単位の診療から、総合あるいは統合診療への移行を考えなくてはなりません。併せて、現在の診療場を有効利用しながらドライマウス治療やブレスケア(口臭治療)、鍼灸科等の設置、教員の出退勤に対する自覚と意欲の高揚と改善、開業・兼業に対する見直し、研修医処遇の改善、歯科医師臨床研修の義務化に伴う卒後研修事務部の創設、教育的見地からのインプラント学講座新設の実現、自己点検・評価報告書への大学基準協会からの指摘事項に対する改善と努力目標の具現化など、山積した問題に着手する必要があります。同時にこれら多くの懸案事項の解決を“絵に描いた餅”に終わらせないために、私自身も全身全霊を傾けて努力していく覚悟であります。

希望に満ちた大阪歯科大学へ

しかし、私一人の力では如何ともし難く、前述のように、理事の先生方は勿論、二人の副学長を中心とした教授各位はもとより、教職員全員の理解と協力無くしては叶いません。したがって、今後は各理事の先生方からのお知恵とお力添えを頂きながら、明るく希望に満ちた大阪歯科大学の未来を目指して、頑張る所存であります。

どうか、本学の教職員は勿論、全国同窓の先生方にも、今まで以上のご協力とお力添えを賜りますようお願い申し上げます、所信表明の結びとさせていただきます。



平成18年度 解剖体慰霊祭

新緑の五月晴れのなか、5月25日(木)午後2時より、平成18年度解剖体慰霊祭が500名を超える参列のもと、四天王寺五智光院にて厳かに執り行なわれた。

開式のことばののち、解剖学講座諏訪教授から祭文が奉読された。導師の読経が始まり、荘厳な雰囲気の中、尊いご遺体を捧げられた御霊のご冥福を祈念して参列者一同焼香を行なった。続いて、大阪歯科大学を代表して今井理事長・学長から、歯科医学の教育研究発展のため篤志をもってご献体いただいた故人、ならびに長年変わらぬご理解とご協力を賜っている黄菊会会員の方々に深甚なる謝意が表され、献体者故小畑延夫殿ほか11名のご遺族に対して文部科学大臣感謝状が授与された。最後に、学生を代表し第3学年佐々木結梨さんが、解剖実習を無事終えたことに対する感謝のことばを霊前に寄せた。

慰霊祭終了後、ご遺族ならびに各参列者は元三大師堂の本学慰霊碑前へ移動して回向を行なった。また、客殿では黄菊会第34回総会が開催され、会務報告等議題を円滑に終え、本年度慰霊祭は恙なく終了した。



平成17年度 監事監査報告

平成17年度会計の決算にあたり、平成18年5月11日(木)、12日(金)の2日間に亘り監査を実施した。今井理事長の「監査をとおして大学の正常な運営が確保されることを期待する」との発言を受け、村上・中村両常務理事、田治米財務担当理事、田中法人事務部長、中村大学事務部長、前野経理部長の立会いのもと、事務各課において監査を実施した。

会計年度は平成17年度で、平成17年4月1日から平成18年3月31日である。監査の範囲は(1)一般会計に関する監査、(2)業務内容に関する監査で、各課における予算の執行状況、前年度の指摘事項の処理状況等を聴取した。

監査の概要は次のとおり。

- (1) 一般会計、財産の状況の監査については学校法人会計基準に準拠し、予算の執行状況、予備費の支出状況及び徴収不能金、諸帳簿、諸帳票の保管状況、各課における決算書等会計業務を中心とし、財産目録、貸借対照表及び収支計算書は学校法人の状況、財務状況及び経営状態を法令若しくは寄付行為に従い適正に表示しているものと認める。
- (2) 業務監査については前年度要望の処理状況、各課における業務の事務分担の状況、教職員の勤務状況(出退勤、時間外勤務、年休消化状況等)、施設・設備・構築物等の保管保全、附属病院の収支と機器の稼動状況、学内LANにおける接続端末の状況・費用対効果の報告を受け監査を行った。業務に関する不正の行為又は法令若しくは寄付行為に違反する重大な事実認められない。
- (3) 各課においては、予算の執行にあたり業者、関係会社との契約において契約形態の変更や契約時点での適正価額の再確認等による値下げ交渉により経費節減に努めておるものの、部署によっては入札等の手段を用い、一層の努力をお願いしたい。今後も引き続き適正な事務処理のもと更なる効率化を要請する。
- (4) 科学研究費等研究に対する各種補助金の獲得は今後ますます必要で、他大学でも獲得推進に注力している。経費の軽減に資するとともに学外に高い教育研究内容と意欲を示すこととなり、大学の社

会的な評価も高めるもので更なる増加を期待したい。

- (5) 学生生徒等納付金は通常ほぼ一定のものであり、私立大学経常費補助金一般補助等の交付状況は年々厳しく抑制されており、多くを期待できる財政状況でもない。
- (6) 附属病院の医療収入は重要な事業収入である。患者とのコミュニケーションはもちろん大切だが、教職員の質も問われている。勤務時間を守ることや患者への親切な対応は、職場のモラルを向上させる大きな要素であり、医療収入の確保に大きく影響する。勤務実態において遅刻等について改善の必要があると思われる。
- (7) 平成17年度の法人理事会は15回開催され、佐川前理事長・今井理事長職務代行を中心として、理事者、教職員の協力を得て、法人の運営を全うできた。各理事は理事会に出席し慎重かつ、活発果敢に議案の審議にあたりるとともに、財務・総務・教学・人事・調査の各担当理事は、それぞれ連携をとり法人の運営に貢献した。法人評議員会については、平成17年度は3回開催され、収支予算並びに決算その他、重要な議題の審議にあたった。



平成17年度 決算報告



平成17年度決算については、去る5月30日開催の第131回評議員会ならびに理事会において承認されました。

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対するすべての資金の収支を明らかにするものです。また、消費収支計算書は学校法人の将来にわたる計画的な財政運営を可能にするため、消費収入と消費支出の内容を示して法人の経営状況を明らかにするものです。

貸借対照表は、当該会計年度と前会計年度とを比較し、資産の増減を明らかにして財産の状態を判断する計算書です。

平成17年度決算の内容の主なものは、

- (1) 臨床実習開始前の学生を対象にした共用試験(CBT, OSCE)の本格実施を前に、トライアルを実施

- (2) 楠葉学舎基幹ネットワークの更新工事
 - (3) 附属病院のエアーシューター設備の第一期整備工事
 - (4) 附属病院のナースコール整備工事
- 等であります。

平成17年度の資金収支計算書、消費収支計算書および貸借対照表の概要は、次のとおりです。

1. 資金収支計算書

資金収入合計は、収入の部合計から前年度繰越支払資金を除いたもので100億8,400万円となり、予算に比べて3億2,400万円減額になっています。これは、事業収入のうち医療収入、学生生徒等納付金収入が見込み額より下回ったことによります。

資金支出合計は、支出の部合計から次年度繰越支払資金を除いたもので98億8,700万円となり、予算を5億4,800万円下回りました。これは、事業収入等の収入予算が大きく下回ったため、資産運用支出において退職資金引当特定預金への繰り入れができなかったためであります。

主な収支科目の内容は、

①資金収入

学生生徒等納付金収入は54億6,200万円となりました。授業料、入学金、施設維持費、教育充実費、実習料が主な収入です。手数料収入は3,600万円で、入学検定料が主な収入です。補助金収入は5億1,600万円で、私立大学等経常費補助金収入、文部科学省の研究設備整備費補助金、施設整備費補助金が該当しています。事業収入は19億8,000万円で、医療収入が主な収入ですが、予算を大きく下回りました。

②資金支出

人件費支出は59億8,100万円、すなわち、本務教職員給、兼務教職員給、退職金等の支出であります。教育研究経費支出は、大学、附属病院、専門学校における教育、研究、診療等の経費で17億8,600万円となりました。そのうち医療経費は、附属病院の医療材料等の診療経費で、学生厚生費は、社会福祉体験学習実習費、学内食堂補助費、学生傷害賠償保険料、学生定期健康診断料、校友会援助金、大学祭補助、歯学体補助金等です。

管理経費支出は、法人の管理・運営に要する経費が主なもので8億1,100万円となりました。そのうち報酬委託費は、守衛業務、清掃業務、植栽業務、附属病院

各科受付業務，施設の運転監視業務等の業務委託費で管理運営に係る経費です。

施設関係支出は 3,500 万円で，楠葉学舎基幹ネットワークの更新工事です。

資産運用支出は 8 億 9,800 万円となり，予算に対し

て 4 億 7,900 万円下回りました。

2. 消費収支計算書

帰属収入は，学生生徒等納付金，補助金，事業収入等の法人の負債とならない収入の合計をいいます。附属学校の入学者数，医療収入が予算より下回ったため，

平成 17 年度資金収支計算書			
(平成 17 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日まで)			
(単位：円)			
収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	5,567,260,000	5,462,770,000	104,490,000
手数料収入	44,370,000	36,216,140	8,153,860
寄付金収入	27,200,000	34,500,000	△ 7,300,000
補助金収入	457,889,000	516,618,031	△ 58,729,031
資産運用収入	213,961,000	283,535,395	△ 69,574,395
資産売却収入	0	2,310,000	△ 2,310,000
事業収入	2,344,440,000	1,980,989,831	363,450,169
雑収入	443,765,000	479,821,568	△ 36,056,568
前受金収入	1,335,650,000	1,269,990,000	65,660,000
その他の収入	1,938,884,000	2,047,602,437	△ 108,718,437
資金収入調整勘定	△ 1,965,338,000	△ 2,030,287,926	64,949,926
小計	10,408,081,000	10,084,065,476	324,015,524
前年度繰越支払資金	1,964,870,844	1,964,870,844	
収入の部合計	12,372,951,844	12,048,936,320	324,015,524
支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	5,957,649,000	5,981,227,661	△ 23,578,661
教育研究経費支出	1,908,988,150	1,786,463,430	122,524,720
管理経費支出	803,754,000	811,040,826	△ 7,286,826
施設関係支出	0	35,259,452	△ 35,259,452
設備関係支出	255,522,600	273,523,257	△ 18,000,657
資産運用支出	1,377,791,000	898,111,006	479,679,994
その他の支出	346,625,000	475,133,613	△ 128,508,613
[予備費]	(16,059,750)		83,940,250
資金支出調整勘定	△ 297,552,000	△ 372,860,881	75,308,881
小計	10,436,718,000	9,887,898,364	548,819,636
次年度繰越支払資金	1,936,233,844	2,161,037,956	△ 224,804,112
支出の部合計	12,372,951,844	12,048,936,320	324,015,524

(注) 予備費使用内訳

教育研究経費支出	修理費支出	1,074,150
設備関係支出	教育研究用機器備品支出	13,545,000
	その他の機器備品支出	1,440,600
	合計	16,059,750

ODU NEWS No.142

平成17年度消費収支計算書 (平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)			
(単位：円)			
消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	5,567,260,000	5,462,770,000	104,490,000
手数料	44,370,000	36,216,140	8,153,860
寄付金	42,200,000	37,706,005	4,493,995
補助金	457,889,000	516,618,031	△ 58,729,031
資産運用収入	213,961,000	283,535,395	△ 69,574,395
資産売却差額	0	2,309,999	△ 2,309,999
事業収入	2,344,440,000	1,980,989,831	363,450,169
雑収入	443,765,000	479,821,568	△ 36,056,568
帰属収入合計	9,113,885,000	8,799,966,969	313,918,031
基本金組入額合計	△ 304,331,000	△ 100,364,264	△ 203,966,736
消費収入の部合計	8,809,554,000	8,699,602,705	109,951,295
消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	5,727,633,000	5,672,731,600	54,901,400
教育研究経費	2,973,050,150	2,866,342,663	106,707,487
管理経費	918,967,000	926,476,030	△ 7,509,030
資産処分差額	0	3,805,164	△ 3,805,164
徴収不能額	0	1,900,089	△ 1,900,089
[予備費]	(1,074,150)		98,925,850
消費支出の部合計	9,718,576,000	9,471,255,546	247,320,454
当年度消費支出超過額	909,022,000	771,652,841	
前年度繰越消費支出超過額	21,856,350,649	21,856,350,649	
基本金取崩額	0	825,904,320	
翌年度繰越消費支出超過額	22,765,372,649	21,802,099,170	

(注) 予備費使用内訳
 教育研究経費 1,074,150
 修理費

87億9,900万円となりました。また、基本金組入額も1億円となり減少したため、帰属収入から基本金組入額を控除した消費支出に充当することができる消費収入は86億9,900万円となり、予算に対し1億900万円の減となりました。

消費支出は、教職員の人件費、教育研究活動および法人の運営に必要な諸経費で94億7,100万円となり、予算よりは減少しましたが、当年度消費支出超過額は7億7,100万円となります。これに前年度繰越消費支出を加え、基本金取崩額を減じた結果、翌年度繰越消費支出超過額は218億200万円となります。

基本金取崩額は、第1号基本金の機器備品において

過年度基本金の繰延高の取り崩しを行ったものです。

3. 貸借対照表

資産の部合計は603億1,500万円で、有形固定資産の減少は減価償却と機器備品の廃棄によるものです。その他の固定資産は、特定資産から一般会計への繰り入れで減少しています。負債の部合計は88億5,700万円で、退職給与引当金と前受金が主なものです。基本金の部合計は732億5,900万円で、今年度の基本金取崩により前年に比べて7億2,500万円の減となっています。

消費収支差額の部合計は、消費収支計算書の翌年度繰越消費支出超過額と一致しています。

貸借対照表

(平成18年3月31日)

(単位：円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	57,397,084,449	58,713,598,663	△ 1,316,514,214
有形固定資産	25,424,755,480	26,312,104,760	△ 887,349,280
土地	5,397,487,608	5,397,487,608	0
建物	12,674,118,828	12,988,129,794	△ 314,010,966
建物付属設備	4,662,694,637	5,317,770,479	△ 655,075,842
構築物	252,167,317	264,050,079	△ 11,882,762
教育研究用機器備品	1,255,748,113	1,191,233,724	64,514,389
その他の機器備品	70,422,420	71,160,155	△ 737,735
図書	1,101,540,963	1,082,272,916	19,268,047
車輛	10,575,594	5	10,575,589
その他の固定資産	31,972,328,969	32,401,493,903	△ 429,164,934
電話加入権	6,626,468	6,626,468	0
有価証券	40,667,803	40,667,803	0
長期貸付金	405,753,000	366,465,000	39,288,000
第3号基本金引当特定資金	29,592,136,727	29,584,509,878	7,626,849
退職金引当特定資金	389,599,233	906,194,880	△ 516,595,647
減価償却引当特定資金	991,406,947	991,406,947	0
有価証券購入資金引当特定資金	109,567,283	106,327,442	3,239,841
医療機器購入資金引当特定資産	120,112,108	100,082,085	20,030,023
記念行事引当特定資産	40,006,000	20,000,000	20,006,000
敷金・保証金	2,405,000	2,405,000	0
学生奨学金貸付金	274,048,400	276,808,400	△ 2,760,000
流動資産	2,918,299,107	2,565,261,685	353,037,422
現金・預金	2,161,037,956	1,964,870,844	196,167,112
未収入金	734,077,926	587,481,598	146,596,328
貯蔵品	8,462,185	8,243,793	218,392
前払金	14,721,040	4,665,450	10,055,590
資産の部合計	60,315,383,556	61,278,860,348	△ 963,476,792
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	6,593,695,077	6,888,379,696	△ 294,684,619
退職給与引当金	6,593,695,077	6,888,379,696	△ 294,684,619
流動負債	2,264,190,643	2,261,694,239	2,496,404
未払金	368,195,431	356,134,573	12,060,858
前受金	1,269,990,000	1,296,210,000	△ 26,220,000
預り金	248,321,464	217,854,476	30,466,988
賞与引当金	377,683,748	391,495,190	△ 13,811,442
負債の部合計	8,857,885,720	9,150,073,935	△ 292,188,215
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	42,995,460,279	43,728,627,184	△ 733,166,905
第3号基本金	29,592,136,727	29,584,509,878	7,626,849
第4号基本金	672,000,000	672,000,000	0
基本金の部合計	73,259,597,006	73,985,137,062	△ 725,540,056
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	21,802,099,170	21,856,350,649	△ 54,251,479
消費収支差額の部合計	△ 21,802,099,170	△ 21,856,350,649	54,251,479
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	60,315,383,556	61,278,860,348	△ 963,476,792

注記

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

・徴収不能引当金

金銭債権の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

・退職給与引当金

退職金の支給に備えるため、期末要支給額6,895,230,425円をもとにして、私立大学退職金財団に対する掛金の累計額と交付金の累計額との繰入れ調整額を加減した金額の100%を計上している。

・賞与引当金

賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当年度に対応する金額を計上している。

(2) その他の重要な会計方針

・有価証券の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法である。

・所有権移転外ファイナンス・リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

・預り金その他経過項目に係る収支の表示方法

預り金に係る収入と支出は相殺して表示している。

・減価償却の方法等について

残存価額を零円とする定額法による減価償却を実施している。耐用年数は学校法人委員会報告第28号による耐用年数を採用しており、主な耐用年数は以下のとおりである。

建 物 50年

建物附属設備 15年

機器備品 10年

・減価償却資産の計上基準について

取得日後1年を超えて使用する有形固定資産(土地、建設仮勘定、図書を除く。)のうち、1個又は1組の金額が10万円以上のものを減価償却資産として計上している。ただし、学生生徒が使用する机、椅子等は少額重要資産として金額の多寡に関わらず教育研究用機器備品に計上している。

2. 重要な会計方針の変更等

「学校法人会計基準」(文部省令第18号)の改正に伴い、当会計年度から改正後の基準によっている。なお、この変更により、従来と同一の方法によった場合と比較して基本金組入額が59,436,874円減少し、当年度消費支出超過額が同額減少している。また、基本金取崩額が825,904,320円増加している。

3. 減価償却額の累計額の合計額

17,571,338,303円

4. 徴収不能引当金の合計額

0円

5. 担保に供されている資産の種類及び額

0円

6. 翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額

9,659,972円

7. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 有価証券の時価情報

(単位 円)

	当年度 (平成 18 年 3 月 31 日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	40,667,803	304,147,909	263,480,106
(うち満期保有目的の債券)			
時価が貸借対照表計上額を超えないもの			
(うち満期保有目的の債券)			
合 計	40,667,803	304,147,909	263,480,106
(うち満期保有目的の債券)			

(2) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っている所有権移転外ファイナンス・リースは次のとおりである。

リース資産の種類	リース料総額	未経過リース料期末残高
教育研究用機器備品	39,775,155円	9,487,800円
その他の機器備品	41,684,031円	15,207,284円

平成18年度 父兄会・共済会総会

平成18年度父兄会・共済会総会が、6月24日(土)午後1時から楠葉学舎講堂において開催された。

当日、265名のご父兄が出席するなか、片尾前幹事長、河見新幹事長ならびに今井学長の挨拶のあと、大東学生部長から学内報告が行われた。また、平成17年度父兄会・共済会決算報告ならびに平成18年度予算案の報告があり、承認された。

総会終了後、学年別個人懇談会が行われ、学年指導教授ならびに助言教員からご子弟の就学状況、生活指導等についての話が個別に行われた。

寄 贈

・佐川 寛典前理事長

平成18年3月28日寄贈

学術研究奨励基金として 1,000,000円也

・戸田 忠夫教授

定年退職を記念して 平成18年3月31日寄贈

学術研究奨励基金として 1,000,000円也

・今井 久夫理事長

定年退職を記念して 平成18年4月5日寄贈

学術研究奨励基金として 1,000,000円也

学位(博士)授与報告

小山和彦 乙第1471号 (平成18年6月28日)

Occlusal contacts in intercuspal position of prostheses without stress absorbing elements on osseointegrated implants (緩衝機構を持たない骨内インプラント補綴装置の咬頭嵌合位における咬合接触状態)

金 基燮 乙第1472号 (平成18年6月28日)

アルジネートをscaffoldとした培養ヒト歯髓由来細胞の移植実験

上田明博 乙第1473号 (平成18年6月28日)

Cytocompatibility of osteoblast-like cells to fiber-sintered porous titanium (チタンファイバー多孔質体に対する骨芽細胞様細胞の細胞適合性)

岩山陽子 乙第1474号 (平成18年6月28日)

咬合接触検査装置による咬合圧重心測定の信頼性ならびに反応性に関する研究

川上富清 乙第1475号 (平成18年6月28日)

光誘導蛍光定量法により観察したin vitroにおけるエナメル質再石灰化に及ぼす各種フッ化物応用の影響

小室 崇 乙第1476号 (平成18年6月28日)

職域における歯科健康検査の受診回数と口腔保健状態との関連

第14回大阪歯科大学公開講座のご案内

一口や歯の健康保持のために

会場：天満橋学舎附属病院 定員：150名

受講料：無料 締め切り：8月11日(金)

申込先：大阪歯科大学 公開講座係 072-864-3001



内 容	日 時	講 師
歯がなくなったときには	8月19日(土) 午後2時~4時	更谷 啓治
味覚がかわったときには	8月26日(土) 午後2時~4時	井関 富雄
口腔ケアをどうすればよいのか	9月 2日(土) 午後2時~4時	柿本 和俊 宮本美千子
歯周病と全身疾患とのかかわり	9月 9日(土) 午後2時~4時	今井 久夫

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

平成18年度 人権啓発行事のお知らせ

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

人権啓発推進委員会では、今年度研修計画策定を行いました。主な行事は、①人権講演会の開催②人権啓発標語の募集③人権論の講義の三つです。

①人権講演会

第1回を7月31日に楠葉学舎において実施します。今年の2月27日に天満橋学舎で行ったテーマと同じ「職場のセクシャルハラスメント防止」について、21世紀職業財団の桑野里美先生に講演していただきます。第2回は1月または2月に天満橋学舎にて別のテーマで実施する予定です。

②人権啓発標語の募集

人権週間（12月第1週）に合わせて、人権啓発標語の学内募集をいたします。

③人権論の講義

18年度新入生より、寺木伸明桃山学院大学教授による「人権論」が開講しました。第1学年担当教員の方々の協力をいただき、新しい趣向も取り入れてスタートしました。学生の皆さんも熱心に受講しています。

平成18年度 第1回人権講演会開催のお知らせ

日 時：平成18年7月31日(月)午後3時から
場 所：楠葉学舎 1号館1階 第2大講義室
対象者：楠葉学舎および牧野学舎の教職員
内 容：①ビデオ 午後3：00～3：30
「ストップ！ 職場のセクシャルハラスメント」
②講 演 午後3：30～5：00
講 師 桑野里美さん(21世紀職業財団)
「職場のセクシャルハラスメント防止のために」

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

人 事

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

称号授与

名誉教授 戸田 忠夫
名誉教授 今井 久夫
以上 H. 18. 4. 1付

教員採用

生化学講座 助手 吉川 美弘
歯周病学講座 助手 民上 良将
欠損歯列補綴咬合学講座 助手 山本さつき
口腔外科学第二講座 助手 蠅庭 秀也
小児歯科学講座 助手 渡邊 京子
以上 H. 18. 4. 1付
歯周病学講座 助手 田口洋一郎
以上 H. 18. 5. 1付
薬理学講座 講師 今井 優樹
以上 H. 18. 6. 1付

昇 任

歯周病学講座 講師 高津 兆雄
欠損歯列補綴咬合学講座 講師 川野 晃
歯科衛生士専門学校 助教員 前岨優亜子
歯科衛生士専門学校 助教員 氏橋 貴子
以上 H. 18. 4. 1付
化学教室 助教員 藤原 真一
以上 H. 18. 6. 1付

教員再任用

眼科 病院助手 河合 江実
以上 H. 18. 4. 1付

大学院教員任用

大学院教授 諏訪 文彦, 岩井 康智
西川 泰央, 池尾 隆
田中 昭男, 福島 久典
大浦 清, 中村 正明
神原 正樹, 山本 一世
小正 裕, 川添 堯彬
井上 宏, 森田 章介
覚道 健治, 川本 達雄
清水谷公成, 大東 道治
小谷順一郎, 堂前 尚親

大学院助教授 玉田 善堂, 塩路伊佐子
 西川 哲成, 山中 武志
 篠原 光子, 武田 昭二
 上村 参生, 井上 昌孝
 林 宏行, 上田 雅俊
 岡崎 定司, 田中 昌博
 前田 照太, 中嶋 正博
 嘉藤 幹夫, 佐久間泰司
 藤田 淳一

大学院講師 池 宏海, 隈部 俊二
 井辺 弘樹, 鎌田 愛子
 田村 功, 和唐 雅博
 富永 和也, 山根 一芳
 野崎 中成, 今井 弘一
 三宅 達郎, 吉川 一志
 好川 正孝, 馬場 忠彦
 柿本 和俊, 更谷 啓治
 川野 晃, 西崎 宏
 大西 祐一, 白敷 慎也
 原 直仁, 杉岡 伸悟
 長野 豊, 澤井 宏文

大学院助手 戸田 伊紀, 合田 征司
 魚部 健市, 真下 千穂
 古川 智代, 大島 浩
 橋本 典也, 川崎 弘二
 土居 貴士, 川本 雅行
 白石 充, 小野 圭昭
 柏木 宏介, 楠本 哲次
 内田 慎爾, 木下 智
 吉田 博昭, 熊 雅彦
 松本 尚之, 古跡 孝和
 四井 資隆, 百田 義弘
 加藤 裕彦, 宮前 雅見
 以上 H. 18. 4. 1付

職員採用

大学事務部 事務部長 中村 廣志
 附属病院 歯科衛生士 義本みどり
 以上 H. 18. 4. 1付
 附属病院 看護師 門司麻依子
 H. 18. 6. 1付

昇 進

総務課人権担当 課長 種坂 隆志
 施設課 課長 大上 登
 以上 H. 18. 4. 1付

所属異動

総務課総務担当 課長 松村 誠一
 総務課人事担当 課長 高須 聡
 総務課広報担当 (兼務) 課長 安藤 孝幸
 図書課 課長 伊藤 淑子
 図書課 課長 安藤 孝幸
 医事課 課長 森田 恭生
 医事課 課長 今道 裕之
 歯科衛生士専門学校事務室 室長 池田 良則
 総務課 主任 青山 敏子
 総務課 一般技術主任 田中 修
 総務課広報担当 (兼務) 一般技術主任 田中 修
 図書課 主任 高橋 和代
 医事課 主任 植松 富子
 医事課 主任 福西 環
 医事課 主任 杉浦 雅之
 医事課 主任 (接遇担当) 鶴野 祥子
 総務課 事務職員 中井 円
 総務課 事務職員 山本 晃也
 図書課 事務職員 大笹 恵子
 図書課 事務職員 東 介伊子
 図書課 事務職員 山城えり子
 図書課 事務職員 岡田久美子
 図書課 事務職員 南 聡子
 病院庶務課 事務職員 藤田満里子
 病院庶務課 事務職員 松浦しのぶ
 病院庶務課 事務職員 宇野 綾
 医事課 事務職員 松原 秀子
 医事課 事務職員 木村 幸子
 医事課 事務職員 森下より子
 医事課 事務職員 上平 愛子
 医事課 事務職員 朝岡真知子
 医事課 事務職員 井上 正樹
 医事課 事務職員 田中 敬子
 医事課 事務職員 渡辺 章子
 医事課 事務職員 栗村 法往
 歯科技工士専門学校事務室 事務職員 小谷 泰生

ODU NEWS No.142

歯科衛生士専門学校事務室 事務職員 原 美津恵
 以上 H. 18. 4. 1付

兼 務

歯科衛生士専門学校 事務長 東野 隆
 中央歯学研究所事務室 室長 堀之内尚樹
 歯科技工士専門学校事務室 室長 池田 良則
 以上 H. 18. 4. 1付

委 嘱

客員教授 玉置 敏夫, 末瀬 一彦
 矢尾 和彦, 宇山 昌延
 森井 外吉, 森 昌彦
 熊崎 護, 森井 浩世
 二階 宏昌, 山下 敦
 北條 博一
 以上 H. 18. 4. 1付

Visiting Professor 朴 榮 國
 David R. Avery
 金 岩
 Chitta Ranjan Choudhury
 Harry L. Dougherty
 金 麗甲
 申 濟元
 飯塚 建行
 以上 H. 18. 4. 1付

嘱託 カウンセラー 精神科医 森 悦子
 嘱託 臨床心理士 畑 聡美
 嘱託 医師 永井 由巳, 梅垣 裕
 奥田 隆彦, 桑田さおり
 藤田あすか

嘱託 歯科医師 近森 信人, 山口 邦男
 以上 H. 18. 4. 1付

人事委員会委員 伊達 洋彦, 中村 正明
 川添 堯彬
 以上 H. 18. 4. 1付
 中村 廣志
 H. 18. 4. 4付

業者登録選考委員会委員 三谷 卓, 伊達 洋彦
 中村 正明, 大上 登
 以上 H. 18. 4. 1付
 中村 廣志
 H. 18. 4. 4付

環境管理委員会委員 種坂 隆志
 H. 18. 4. 1付
 中村 廣志
 H. 18. 4. 4付

自己点検実施委員会副委員長
 中村 正明, 川添 堯彬

自己点検実施委員会委員 安藤 孝幸, 高須 聡
 東 真一郎, 種坂 隆志
 以上 H. 18. 4. 1付
 中村 廣志
 H. 18. 4. 4付

退職資金管理運営委員会委員 川添 堯彬
 H. 18. 4. 1付
 中村 廣志
 H. 18. 4. 4付

学術研究奨励基金管理運営委員会委員 川添 堯彬
 H. 18. 4. 1付

枚方資料センター管理運営委員会委員 中村 廣志
 H. 18. 4. 4付

財務企画委員会委員長 今井 久夫
 財務企画委員会委員 三谷 卓, 伊達 洋彦
 以上 H. 18. 4. 1付
 中村 廣志
 H. 18. 4. 4付

財務企画委員会経営部会部会員
 三谷 卓, 橋本 猛伸
 以上 H. 18. 4. 1付

財務企画委員会病院の運営に関する事項部会
 部会員 三谷 卓
 H. 18. 4. 1付

財務企画委員会給与部会部会員 中村 廣志
 H. 18. 4. 4付

財務企画委員会経営部会部会員 中村 廣志
 H. 18. 4. 4付

ODUウェルネス・ホール管理運営委員会委員
 中村 廣志
 H. 18. 4. 4付

人権啓発推進委員会委員 三谷 卓, 中村 正明
 種坂 隆志
 以上 H. 18. 4. 1付
 中村 廣志
 H. 18. 4. 4付

個人情報保護委員会委員 中村 廣志
H. 18. 4. 4付

個人情報保護委員会事務部門委員会委員
中村 廣志
H. 18. 4. 4付

総務部委員会委員 中村 廣志
H. 18. 4. 4付

平成18年度共用試験歯学系OSCE運営委員会
委員長 今井 久夫

平成18年度共用試験歯学系OSCE運営委員会
副委員長 井上 宏
川本 達雄
小谷順一郎

平成18年度共用試験歯学系OSCE運営委員会
委員 神原 正樹, 山本 一世
小正 裕, 川添 堯彬
森田 章介, 覚道 健治
清水谷公成, 大東 道治
堂前 尚親
以上 H. 18. 4. 12付

平成18年度共用試験歯学系OSCE実行委員会
委員長 小谷順一郎

平成18年度共用試験歯学系OSCE実行委員会
準備委員長 山本 一世

平成18年度共用試験歯学系OSCE実行委員会
委員 西川 哲成, 井上 昌孝
馬場 忠彦, 高津 兆雄
田中 昌博, 前田 照太
井関 富雄, 中嶋 正博
高橋 一朗, 古跡 孝和
百田 義弘, 米谷 裕之
西堤 京子, 西本 敏彦
木下誠一郎
以上 H. 18. 4. 12付

平成18年度共用試験歯学系OSCE実施組織運営
委員会委員 中村 廣志
H. 18. 4. 12付

学内食堂管理運営委員会委員 中村 廣志
H. 18. 4. 4付

健康管理委員会委員 中村 廣志
H. 18. 4. 4付

ブラッシュアップ委員会委員長 池尾 隆
ブラッシュアップ委員会委員
岡村 英幸, 樫 則章
竹村 明道, 隈部 俊二
内橋 賢二, 田村 功
富永 和也, 山中 武志
篠原 光子, 今井 弘一
上村 参生, 川本 雅行
馬場 忠彦, 高津 兆雄
柿本 和俊, 更谷 啓治
前田 照太, 篠田 豊
中嶋 正博, 神原 敏之
板垣 恵輔, 嘉藤 幹夫
佐久間泰司, 大久保 直
以上 H. 18. 4. 1付

組換えDNA実験安全委員会委員長 福島 久典
組換えDNA実験安全委員会委員
樫 則章, 川合進二郎
田中 昭男, 和唐 雅博
神原 正樹, 堂前 尚親
以上 H. 18. 4. 1付
中村 廣志
H. 18. 4. 4付

大阪歯科大学創立100周年記念行事企画委員会
委員長 今井 久夫

大阪歯科大学創立100周年記念行事企画委員会
委員 三谷 卓, 白神 進
下村錢三郎, 伊達 洋彦
新田 孟, 村上 勝
田治米保夫, 岡 邦恭
橋本 猛伸, 中村 正明
川添 堯彬, 井上 宏
田中佐和子, 前野 隆
中村 廣志
以上 H. 18. 4. 1付

第一学年 学年指導教授 池尾 隆
助言教員 相川 文子, 柘植 昌保
上村 守, 樫 則章
藤原 眞一, 鎌田 愛子

第二学年 学年指導教授 川合進二郎
助言教員 内橋 賢二, 辻林 徹

第三学年 学年指導教授 中塚美智子, 藤田 淳一
 助言教員 戸田 伊紀, 岡村 英幸
 福島 久典
 武田 昭二, 古川 智代
 川崎 弘二, 野崎 中成
 魚部 健市, 田村 功

第四学年 学年指導教授 森田 章介
 助言教員 三宅 達郎, 和唐 雅博
 今井 弘一, 篠原 光子
 高井 規安, 山中 武志

第五学年 学年指導教授 小谷順一郎
 助言教員 川嶋 信子, 林 宏行
 原 直仁, 吉川 一志
 古跡 孝和, 佐久間泰司

第六学年 学年指導教授 清水谷公成
 助言教員 稲田 芳樹, 井関 富雄
 岡崎 定司, 田中 昌博
 堀井 活子, 兼平 治和
 以上 H. 18. 4. 1付

校友会会長 新池 孜
 H. 18. 4. 1付

中央歯学研究所委員会委員 中村 廣志
 H. 18. 4. 4付

動物施設利用代表者会議委員
 板垣 恵輔, 澤井 宏文
 民上 良将, 大上 登
 以上 H. 18. 4. 1付

動物実験委員会委員 大浦 清, 竹村 明道
 西川 泰央, 森田 章介
 西川 哲成, 岡崎 定司
 樗 則章, 川合進二郎
 池尾 隆, 喜多 正和
 以上 H. 18. 4. 1付

臨床研修管理運営委員会委員 江原 雄二
 田口 洋見
 以上 H. 18. 6. 1付

講師(非常勤)委嘱

解剖学講座 古原 英男, 清水 孝治
 蔵前 勝彦, 疋田 芳寛
 島田 純治, 中村 雅彦
 湯 兆舜, 江原 雄二

武田 憲明, 大塚 拓三
 中道 哲, 北村清一郎
 牧草 一人, 三宅 晴記
 藤原 成樹, 松川 信夫
 武田 安弘

口腔解剖学講座 藤井 征, 小林 徹
 長楽 謙輔, 阪本 義之
 鄭 在泳, 橋爪 年世
 菊池 史郎, 李 炳漢
 多田 逸, 中西 透
 荻田 雄紀, 山本 洋幸
 松田 哲一, 小島 寿雄
 椿井 孝芳, 朱 成淑

生理学講座 杉村 忠敬, 新谷 衛
 山本 修治, 岸 文隆
 芳本 忍, 榎村 光仁
 長谷川彰則, 大野 榮
 陣内皓之祐, 小山 なつ
 吉村 佳博, 岩崎 精彦
 宮尾 治樹, 村上 浩孝
 岩住 征紀, 樋口 恭子
 森 明彦

生化学講座 阿部 公生, 藤田 厚
 前田 純典, 涌本 昇
 長澤 成明, 畑下 芳史
 梁川 国昭, 高石 佳知
 小坂 広之, 奥田 裕司
 高屋 毅史, 中川 雅夫
 伊東 禎雄, 倉阪 雅巳
 有山金一郎

口腔病理学講座 住谷 道夫, 岡下 守正
 芦田 欣一, 善 睦彦
 奥野 夏樹, 前田満里子
 新谷 牧, 岡村 敬次
 松井 正剛, 川口 佳夫
 武田 良一, 東浦 宏守
 和田 聖二, 河原 康二
 山根木康嗣, 佐久間 勲
 筒井 淳, 西村 泰典
 畑 慎太郎

細菌学講座 井上 純一, 小川 敏

村松 洋司, 伊藤 康夫
 谷 明, 徳永 恵子
 西川 文男, 藤田 康一
 水野 周二, 山本 範子
 吉竹 弘行, 和手 甚京
 松野 ・晃, 亀井 真紀
 太田 利光, 多々見敏章
 中沢 賢一, 小幡 登
 廣畑 顕一

薬理学講座

石川 協, 大草 修
 森川 裕, 岡本 卓士
 九門 好彦, 前原 潔
 井上 博明, 吉岡 三四
 宮田 敏生, 坂本 伸人
 武内信二郎, 高山 昭則
 河野 元一, 村川 昇
 田地 陽一, 狹川 正
 林 昭典, 野阪ひとみ

歯科理工学講座

小室 智, 石崎 順啓
 西田 堯吉, 今西 嘉次
 川原 大, 五老海輝一
 片岡 喜平, 三浦 康伸
 森口 泰成

口腔衛生学講座

奥 忠之, 櫻井 宏守
 白石 雅照, 今井 意晴
 野村 一夫, 尾辻 淳
 藤井 由希, 中川 哲也
 森野与史緒, 熊崎 眞義
 村田 省三, 井上 富夫
 小林 正憲, 岡村 伸江
 奥村 信, 日吉 紀子
 伊津 元博, 平塚 靖規
 生内 信男, 清水 一彦

歯科保存学講座

清水 建彦, 金田 順三
 小池 恭弘, 福島 重紀
 岩田 明, 河見 忠雄
 黒瀬 信隆, 谷 哲
 三木 秀治, 河村 昌哲
 藤田 昌弘, 岩田 有弘
 福井 敬和, 小山内 惺
 藤原 秀樹, 吉原 正晃

口腔治療学講座

松田 毅, 藤田 智
 塩見 聰, 奥野 一吉
 伊地智弘昌, 細見 環
 速水 茂, 巖 恭輔
 上村 学, 寺田 行男
 金村 成智, 河津 正文
 竹村 正仁, 山田 健蔵
 薄 孝, 逸見 浩史
 木村 喜彦, 上田 佳世
 辻 則正, 増田 吉彦

歯周病学講座

横山 邦生, 林 正純
 南林 繁良, 中垣 直毅
 本城 範典, 西川 義公
 大西 和久, 寺西 義浩
 永石 真幸, 畠山 善行
 松田 正文, 實重 英仁
 菅 人志, 神田 浩
 岡西 裕公, 釜谷 晋平
 白井 健雄, 光山 誠
 民上 良徳, 福永 剛士

高齢者歯科学講座

亀水 忠茂, 宮 博文
 大槻 榮人, 浅井 加雄
 松尾 光至, 岡田 隆夫
 田中 球生, 額田 和門
 蘆田 貴司, 北山 展弘
 井上 愛, 上田 章浩
 水見 彰敏, 村岡 正規
 田中 栄士, 藤岡宗之輔
 原 佳代子, 右遠 英悟

有歯補綴咬合学講座

藤野 明, 鶴身 敬三
 辻 功, 松島 諒
 太田 邦雄, 佐川 寛一
 河野 亘, 水井 雅則
 馬場 俊輔, 柳田 昌宏
 長砂 孝, 徳永 徹
 仲西 健樹, 田中 誠也
 瀧川 博嗣, 今井 敦子
 上田 直克, 佐古 好正
 木村 公一, 朴 康 鉦

欠損歯列補綴咬合学講座

犬伏 義臣, 泉谷祐紀員
 加藤 博, 加藤 信次

吉田 和也, 岡田 正傳
 奥田 昌義, 三谷 徹
 吉峰美千代, 奥田 啓之
 原 雄大, 藤原 到
 恩地 良幸, 池田 直也
 西川 敏文, 竜門 宏
 吉川 洋史, 島谷 肇
 上り口晃成

口腔外科学第一講座

連 利隆, 森本 忠三
 島 盛隆, 大石 建三
 大杉 泰敏, 栗林 信仁
 古田 治彦, 佐々木 昇
 酒匂 潤, 小淵 匡清
 青柳 信好, 植野 茂
 浦 栄吾, 井上 明洋
 杉本 圭介, 卞 勝人
 福田あおい, 松本 康宏
 黒田 卓, 佐野 寿哉
 橋本 武, 仁木 寛
 有家 巧, 赤根 昌樹
 杉立 光史, 柚木 大和
 郷 真奈武, 林 秀一
 後藤 基宏, 吉本 仁
 岩本守市良, 鹿野 学
 山崎 行庸, 岩崎 春美
 栗田 賢一, 正重 裕一
 森下 寛史, 田村 浩伸
 大浦 寿哉, 犬伏 俊嗣
 金 漢俊, 姜 九漢
 寺井 裕, 高橋 啓
 深井 統久, 野田 真
 大塚 重雄, 飯田 拓二
 金 錫俊, 関 詔夫
 壺内 建行, 岡林 聰
 長屋 和也, 速水 勇人
 永木恵美子, 山本 昌宏
 岡下慎太郎, 玉田 亨

口腔外科学第二講座

齒科矯正学講座

今井 一彦, 内海 潔
 江原 昌弘, 田中 義弘
 山崎 章, 木原 卓司
 川植 康史, 室井 誠

齒科放射線学講座

松本 義之, 釜田 博史
 藤谷 富男

小児歯科学講座

池本 博之, 石井 信行
 大道 士郎, 大谷 敬三
 梶本祐一郎, 嘉ノ海龍三
 工藤俊次郎, 佐伯 克彦
 高松 恒美, 大東 美穂
 中村 弘之, 濱田 義彦
 保澤 静, 前田 光宣
 松尾 博之, 三戸 應則
 三村 雅一, 山尾 雅朗
 渡邊 邦一, 渡辺 景子
 留守 信興, 豊田 芳郎
 遠山 正彌, 野口 光一
 中村 久美, 山田 隆造
 坂尻 光春, 藤 喜久雄
 増井 雄治, 足立 了平
 橋川 直浩, 金銅 英二
 河合 峰雄, 古玉 克平
 水野 誠, 村田 賢司
 姜 由紀

齒科麻酔学講座

内科学講座

高林 有道, 熊谷 俊一
 根住 直史, 濱中大三郎
 岡崎 俊朗, 梅原 久範
 米田 修, 薬師寺健太郎
 奥田 恵子, 宮地 理彦
 田幡 純, 田幡 治
 服部 一秀, 森本伊智郎
 谷 泰一郎, 窪 盛偉
 鎌田 守人, 山下 雅資

耳鼻咽喉科学講座

一般教育科目

人権論 寺木 伸明
 文学 石黒 義昭
 医療人のための文章表現 渡辺 浩司
 心理学 堀川 雅美
 社会学 平 英美
 英語精読 中村 久男
 上級会話・リスニング Richard Miller
 ドイツ語 北原 寛子
 フランス語 中野康次郎
 中国語 相原 里美

総合教養 三瀬 顕
 メディア論 羽田 潤
 源氏絵を読む 井上 新子
 基礎情報科学 中村 民明
 基礎情報科学 中尾 泰士
 体育実技 松原 慶子
 体育実技 新山 雅紀

講座所属外
 外科学 稲本 俊
 外科学 山城 大泰
 医事法制学 稲葉 一人
 統計・医療統計学 藤木 美江
 法医学・法歯学 安原 正博
 小児科学 住本 真一
 皮膚科学 杉原 昭
 精神科学 砂原 千徳

兼担者
 眼科学 岸本 直子
 口腔診断科 米谷 裕之, 辻 一起子
 辰巳 浩隆, 三ヶ山茂樹
 大西 明雄
 口腔インプラント科 江藤 隆徳, 井上 雅裕
 歯科審美学 末瀬 一彦
 以上 H. 18. 4. 1付

口腔外科学第二講座 濱本 和彦
 内科学講座 原川 奈梨
 以上 H. 18. 6. 1付

大学院歯学研究科
 口腔解剖学 朱 成淑
 薬理学 野阪 泰弘
 口腔衛生学 松村 英夫, 安藤 昌俊
 田中 秀直
 歯科保存学 廣瀬 泰明, 砂田 和久
 宮地 秀彦, 諏訪沙耶佳
 歯周病学 河野 智生, 小池 敏克
 富井裕紀子
 高齢者歯科学 田中 栄士, 藤岡宗之輔
 有歯補綴咬合学 龍田 光弘, 中西 紀
 西川 学, 松島 恭彦
 鷹尾 智典
 欠損歯列補綴咬合学 岡本 吉宏, 村松 豪太

奥田 恵司, 田村 佳則
 岩脇 康人
 口腔外科学 (第一) 志水 秀郎, 堀内 薫
 北郷 明成, 福地 和秀
 口腔外科学 (第二) 松本 俊郎, 中田 研
 小児歯科学 佐野 祥子, 濱田吉之輔
 歯科麻酔学 山下 智章, 徳永 敦
 孫 弘樹
 内科学 薬師寺健太郎
 以上 H. 18. 4. 1付

歯科技工士専門学校講師(非常勤)
 長家 秀博, 松原 慶子, 山本 卓世
 佐ノ木幸夫, 藤田 淳一, 上野乃武彌
 川原 春幸, 中村 正明, 武田 昭二
 大島 浩, 都賀谷紀宏, 諏訪 文彦
 竹村 明道, 戸田 伊紀, 上村 守
 東 義景, 岩井 康智, 隈部 俊二
 豊田 紘一, 新池 孜, 川合進二郎
 樫 則章, 矢尾 和彦, 西川 泰央
 池尾 隆, 小谷順一郎, 福島 久典
 方 一如, 川添 堯彬, 田中 昌博
 更谷 啓治, 楠本 哲次, 江藤 隆徳
 井上 宏, 前田 照太, 内田 慎爾
 山本さつき, 権田 悦通, 小正 裕
 小野 圭昭, 郷上 勲, 川本 達雄
 松本 尚之, 北條 博一, 大東 道治
 嘉藤 幹夫, 白敷 慎也, 山本 一世
 江頭 勝, 清水谷公成, 神原 正樹
 田中 昭男, 覚道 健治, 森田 章介
 宮川 千一, 高橋 恵美, 桑田 正博
 本多 正明, 山下 恒彦, 和田 弘毅
 足立 勝, 西村 徹, 大森 三生
 河村 龍三, 内木 雄一, 加地 公夫
 西村 謙, 佐藤 繁男, 竹本 和司
 永井 利明, 西村 幸雄, 菊田 茂
 小山 和美, 吐山 寛, 宮川 浩司
 齊藤 俊文, 堀内 賢, 武森 政文
 中辻 孝一, 森川 幸子
 以上 H. 18. 4. 1付

歯科衛生士専門学校講師(非常勤)
 川合進二郎, 岡村 英幸, 新池 孜

藤原 眞一, 豊田 紘一, 下田 豊
檜 則章, 渡辺 浩司, 谷 康平
山本 卓世, 長家 秀博, 岡本 恵
諏訪 文彦, 竹村 明道, 戸田 伊紀
玉田 善堂, 池 宏海, 上村 守
内橋 賢二, 池尾 隆, 鎌田 愛子
岩井 康智, 中塚美智子, 田中 昭男
西川 哲成, 山中 武志, 大浦 清
篠原 光子, 野崎 中成, 神原 正樹
上村 参生, 川崎 弘二, 三宅 達郎
野田 寛, 中村 亜紀, 今西 秀明
福井 和枝, 入江 隆子, 大東 文子
井上 昌孝, 林 宏行, 今井 久夫
緒方智壽子, 小正 裕, 篠田 豊
高橋 一朗, 柿本 和俊, 近藤ひとみ
上根 昌子, 木村 智美, 清水谷公成
古跡養之眞, 米谷 裕之, 北條 博一
小谷順一郎, 佐久間泰司, 中村 正明
末瀬 一彦, 前原 潔, 方 一如
宮本美千子, 藤林由利安, 高田橋美幸
星野 茂, 紺井 拓隆, 小出 武
大東 道治, 嘉藤 幹夫, 馬場 忠彦
畦崎 泰男, 辻 一起子, 福田 公教
笠原 幸子, 森田婦美子, 西村 正喜
林田 弓夫, 前田 哲志, 渡部 澄江
岩橋 秀彰, 古川 正之, 杉山 淳彦
小河 容子, 張木 康代, 平尾 一幸
堂前 尚親, 大久保 直, 長野 豊
宮前 雅見, 澤井 宏文, 岸本 直子
森 悦子, 湊川 徹, 島津 薫
北村 博彦, 江藤 隆徳, 井上 雅裕
高橋 節子, 吉原 正彦, 小田見也子
今井 公一, 前田留美子, 山下 政代
牧嶋 孝生, 近森 信人, 飯尾 尚子
井本 眞弓, 岩佐 藍, 下川 泰子
橋本 由日, 南部 智子, 森川 香純
松本 拓真

以上 H.18.4.1付

あとうがき

—余談—

広報誌の仕事をしていますと、必要に応じ原稿を書いたり図表を作成したりすることもあります。基本的には原稿を依頼し、いただいた原稿を校正する作業と集まった原稿・写真等を編集し、割り付ける作業が中心になります。ところで、この校正という作業がなかなか厄介な仕事なのであります。

広報誌といえども、後々まで文字として残りますので、誤字や不適切な表現のほか難解な文章については、広報誌としての立場からできるだけ一般的な表現に修正していただくようお願いすることがあります。こうした原稿をめぐるやりとりのなかで、その人の人柄というものを垣間見ることがあります。同じように校正していても、怒られたり、逆に礼を言われたり、また編集という立場を理解してくれて任せてくれる人、などなど。

ひととおりの編集が完了した時点で、広報委員だけでなく総務課員にも、できるだけ多くの人に校正をお願いします。すると、毎号、必ず手痛い「ミス」の指摘を受けます。単純な見落としもあり、またまったく気が付かなかった指摘もあります。がっかりするとともに、ありがたいことだと思直します。それだけミスを防げたわけですから。自分では見えていなかった部分の自分を教えてくれているように感じます。

そうしたことを考えていた時、「ジョハリの窓」という考え方があることを知りましたので紹介します。アメリカの心理学者、ジョゼフ・ルフトとハリー・インガムの2人が発案したことからこう呼ばれていますが、2人は対人関係のなかの「私」を簡単な4つの領域の理念型で説明します。すなわち、「開かれた自己」(open self)、「隠している自己」(hidden self)、「気が付いていない自己」(blind self)、「未知なる自己」(unknown self)という4領域であります。

「開かれた自己」とは、「私」に関する情報(感情や行動)が自分だけでなく他人にも知られていて一致しており、そのなかで私は心を防衛する必要がなく、自然に自由に活動できる領域であります。2人は、この領域を拓げる努力をすることが自己成長につながると考えました。「隠している自己」とは、自分では認識し

ているが、他人には知られたいくない部分でプライベートな「私」の領域です。私に関する情報が開示されていないので、対人関係は不自然になりがちである。この部分の私を開示していくことで、心の防衛機制も減少し、他者との信頼関係も深まる。次に「気が付いていない自己」とは、本人自身は気が付いていないが、他人からははっきりと認識されている「私」のことです。この部分の私が大い人は、他者との間でズレが生じやすく、コミュニケーションにも支障をきたすことがあります。これを是正するには、自分に関して他人がどういった意見をもっているかを素直に聞く姿勢が大切です。私に関する自己認識と他者認識では、大小の差はあれ誰でも異なっているからです。最後に、「未知なる自己」ですが、私にも他人にもわかっていない「私」のことです。潜在能力の開発とか自己啓発とかいう怪しげな宣伝の材料を提供しそうな領域ですが、開かれた自己の領域を拓げる努力をすることが、未知

の領域における私を意識化させることにつながり、新しい自己を発見できるかも知れません。

仕事においても、互いに自らの考え方(隠れた自己を含めて)を開示していく姿勢が必要ではなかろうか。それが、相互の円滑なコミュニケーションと信頼関係にもつながり、様々な問題を解決していく一歩となるのではなかろうか。また、教育においても「開かれた自己」という概念は、学生はもちろんのこと、教員自身も参考になるのではないかと考えられる。

大阪歯科大学広報 第142号
 発行日 平成18年6月30日
 編集発行 広報委員会
 〒573-1121 枚方市楠葉花園町8-1
 電話 072-864-3111

ジョハリの窓

	自分が知っている私	自分が知らない私
他人が知っている私	開放の窓 開かれた自己 (open self)	盲点の窓 気が付いていない自己 (blind self)
他人が知らない私	秘密の窓 隠している自己 (hidden self)	未知の窓 未知なる自己 (unknown self)



	自分が知っている私	自分が知らない私
他人が知っている私	開放の窓 開かれた自己 (open self)	盲点の窓 気が付いていない自己 (blind self)
他人が知らない私	秘密の窓 隠している自己 (hidden self)	未知の窓 未知なる自己 (unknown self)

